



<http://www.minamih.net/>
15・5・17(日)
南NEWS NO13

思い出いっぱい 拓大杯

第1回大会の小6の部では南が優勝しています。6年生は鈴木君1人で、後は5年生というチームで決勝は圧倒的なスコア8-0で優勝したのです。

当時は読売サッカークラブ(現ヴェルディ)主催の読売大会が最もレベルの高い大会で、南はベスト8まで勝ち進んでいたのですが“鈴木君に優勝をプレゼントしよう”と、読売の大会を棄権して拓大杯優勝を果たしたのです。

準決勝、浅川小と対戦。拮抗した試合、PK戦かなと思った後半、右CKを松村君がダイビングヘッドで決めて劇的な勝利！！

松村君はその後、國學院久我山高校、早稲田大学とサッカーを続け、早稲田大学サッカー部のCFとして活躍したのです。早慶戦も観に行きました。

今の6年生も初戦の小宮戦を突破すれば、思い出を創る可能性があります。ハートで負けなければ勝てます！！
by 南のアンパンマン

中村 憲剛選手



川崎フロンターレの中村選手は小学生時代は府ロクサッカークラブの中心選手でした。楽しそうにプレーしていました。小さい体でしたがドリブルが非常に上手でパスも自在に操る選手でした。

むさしのリーグの試合や都大会で活躍する姿をよく観ていました。

ベンチからの指示の声は一つもなく、憲剛選手を中心にみんなでコーチングしあいながらゲームを進めていました。

都代表として出場した全日本大会では単独チームでのベスト4入りに貢献したのです。

当時の富士見丘も全国大会ベスト4に入るドリブル主体のチームでしたが、東京都さわやか杯でも優勝・準優勝の常連で、子ども達がみんなで声を掛け合いながらゲームを創るチームでした。ベンチからの声は一つも聞こえてきませんでした。私はこんなチームを創りたいなとつくづく想いました。

主役は子ども達です。練習ゲームの時は「フリーズ」の声をかけ指導をしますが、試合では子ども達の判断・選択・実行・反省の4サイクルを子ども達自身で育ててもらおうように大人は助言に徹しなければなりません。試合前・ハーフタイム・試合後のミーティングがその機会です。それがめざすべき理想の姿なのです。

でもタイトルがかかると私も声を出しすぎてしまい、ひんしゅくを買っています。反省！！ 反省！！
by 南のアンパンマン



第38回 拓殖大学杯 組み合わせ



